

「我が家の自慢猫」

苦沙弥先生

我が家には猫がいる。

東日本大震災のあった年、ある晩玄関の外でミャーミャーと子猫の音がする。当時まだ家にいた娘二人が出ていったがその時は逃げてしまった。

親は一緒にいないし、そのままでは死んでしまうかもしれないと翌晩ミルクを用意して待っていたところ、夜更けてから現れた。

玄関に誘い込んでミルクを与えたらよく飲んだが、ドアが閉められて外へ出られないのが分かったとたん、怒ること、怒ること。

手のひらに乗りそうな大きさだったのにシャー！シャー！と子猫ながら精一杯の威嚇を表していた。

ミルクとトイレを準備してほうっておいた。当初は物陰に隠れて人間には馴れない様子を見せていたが、3日目に家族のいる2階に自分から上がってきた。

ここに居れば危険はないと判断したのか、それからはリラックスして伸び伸びとふるまうようになった。

天気の良い日は2階のベランダに寝そべって、庭に来る鳥をじっと見たりしているがそれ以上外へは出ようとしない。警戒心は強い方ようだ。

チャトラのオスは猫の中で一番の甘えん坊と言われる。ウチのケムリ（名付け親は妻。理由はわからない。）も通説に違わず、大変な「かまってちゃん」となり、しかも年々その度合いを増している。人間にするともういい歳の筈なのだが。

暗くなってから帰宅すると、その時だけは玄関で「こんな遅くまでどこへ行ってたの？」という顔で待っている。

昼寝はあちらこちらで気ままにしているが、夜は人の側でないと寝ない。寒い時季には布団にもぐり込んで来る。

猫が好んで入ると言われる段ボール箱を用意しても入らない。

箱に入れて捨てられたのがトラウマになっているのでは？とは娘たちの説である。

食事はスープとカリカリをやっているが、余程お腹が空いている時は別にして、独りでは食べようとしない。「食べるからその間撫でていて」と、以前はニャーニャーと鳴くだけだったのが、近頃は甘噛みして要求する。実に面倒くさい、手が掛かる猫である。好きなブラッシングも甘噛みで催促し朝夕2回。



得意の甘噛み攻撃

季節によっては大量に毛が抜ける。そのせいか毛玉を吐くことは少ないようだ。

大嫌いなのは見知らぬ訪問者。前触れのピンポンが鳴るとそそくさとどこかへ隠れてしまう。殆んどの場合、郵便局か宅急便で、すぐ帰るのだが、しばらくたつと2階から「もう帰ったかなあ？」と心配そうな顔で玄関を窺っている。

何年前のこと。「ケムがない！」と妻から電話があり、急遽家に帰ったことがあった。エアコンの工事日で、例によってどこかへ隠れたのだが、終わってから探しても見つからないと。業者が玄関を何度か出入りしたので、その時に出て行っちゃったんじゃないか、もっと気をつけていれば良かったと妻は殆んど半泣き状態。

家の中と周りを一緒に探したが見つからず、「夜になったら帰って来るよ。」と慰めて会社に戻ったら、ほどなく家のどこからか出てきたそうだ。

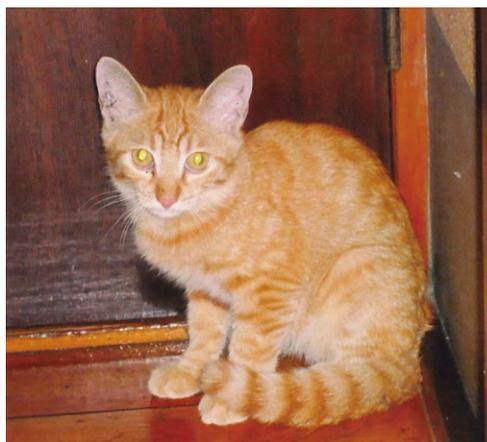
亡き両親と二世帯で住んではいたが、だだっ広い訳ではないのにどこに隠れていたのか？未だに謎である。

もうひとつ嫌いなのは動物病院。今のところ発症はしていないが、猫エイズ陽性なので定期的に検診を受けている。行くのが分かるらしく籠に入れるだけでも一苦勞で、連れて行く車の中と待合室ではミャオン、ミャオンと情けない声で鳴きっぱなし。「よその子はみんなお利口なのに！」と妻にいつも叱られている。

ところが、診察室で先生の前に出ると固まってしまって声も出ないそうだ。

ペットは飼い主に似ると言うが、これほどヘタレなのはどちらに似たものか。

自慢できる猫とはとても言えないが、娘たちが家から独立して夫婦二人の生活になってからは、変化も話題も乏しく「子はかすがい」ならぬ「猫はかすがい」でケムリが大いに役立っているのは確かなようだ。



入居3日目